

研究 成 果 報 告 書

- ・機関及び学部、学科等名 富山大学 東アジア言語文化講座日本文学分野
- ・所属ゼミ 小谷ゼミ
- ・指導教員 小谷 瑛輔
- ・代表学生 白鳥 公樹
- ・参加学生 下出 茉波、山下 瑞葵、稲本 力信、小田 凜乃、工藤 誠士、桑平 拓磨、
白鳥 公樹、濱野 美典、吉岡 未奈美、太田 晴菜、岡村 知瑛、河内 秀斗、
北岡 美乃梨、作田 佳奈、澤井 扶久実、新宅 妃夏、中田 茜、藤井 晴香、
村上 瑞季、山口 由莉、山本 真帆、孫 媛媛

【研究題目】富山のこれからのコンテンツ・ツーリズムのために

1. 課題解決策の要約

近年、アニメーション作品内で登場した実際の風景について、作品を視聴した視聴者がその場所に赴く「聖地巡礼」と称される行為が活発化している。場合によっては大規模な経済効果をもたらすこともあり、観光産業の一環としても注目を集めている。富山県内にもアニメーション作品の舞台のモデルとなった地域が複数存在しており、それらを富山県の観光資源として利用することで観光客の増加などが期待できる。富山県内の観光産業の活性化の一手段として、コンテンツ・ツーリズムは有効であるということを本研究では改めて提言し、県内で顕著なコンテンツ・ツーリズムの成功例から観光産業が活性化に有効な条件を提示する。

2. 調査研究の目的

富山県には全国的に珍しい、地方に本社スタジオを持つアニメーション制作会社である P.A.WORKS が存在しており、同社の制作したアニメーション作品では富山県の風景が舞台のモデルとして用いられていることが多い。また上市町出身のアニメーション監督である細田守氏は『おおかみこどもの雨と雪』では自らの出身地である富山県の風景を作品内で用いている。このように富山県はアニメーション作品と現実の風景との間に強い関連性がある。

現実の風景がアニメーション作品や漫画などのコンテンツで用いられることで、そのコンテンツを視聴した視聴者やコンテンツのファンが実際に使用されたその場所に訪れる活動が「聖地巡礼」と称され、近年活発化している。「らき☆すた」(埼玉県久喜市)や『花咲くいろは』(石川県湯涌町)、『ガールズ&パンツァー』(茨城県大洗町)などがその代表的な例と言えるだろう。これらの活動には基本的に現地を訪れた観光客による経済効果が伴うことになる。しかし単にそれだけでなく、コンテンツを出発点として訪れた観光客がその地域の魅力を発見し、継続して訪れるリピーターとなることや、地域に人が集まることで地域振興や活性化に繋がっていくという副次的な効果も確認されている。

本研究では、上述した「聖地巡礼」行為を、「地域に関わるコンテンツ(映画、テレビドラマ、小説、漫画、ゲームなど)を活用して、観光と関連産業の振興を図ることを意図したツーリズム」(国交省・経産省・文化庁「映像等コンテンツの制作・活用による地域振興のあり方に関する調査」報告書)に該当するものと定義して「コンテンツ・ツーリズム」と呼称し、富山県内において展開されている、富山県を舞台のモデルとして制作されたアニメーション作品についてのコンテンツ・ツーリズムの現状把握、及び観光産業への利用可能性の検討を主たる目的として調査を実施した。

3. 調査研究の内容

(a) アンケート調査

富山県でのアニメーション作品についてのコンテンツ・ツーリズムの実態を調査するために、アニメーション作品の舞台のモデルとなった県内の各地域でアンケート調査を実施した。調査を実施した地域は①南砺市、②富山市、③立山町である。それぞれの調査の詳細については下に記述する。

①南砺市

[1]城端地区での観光客及び周辺店舗、周辺施設へのアンケート調査(9月18日、日曜日)。城端むぎや祭りが開催されており、天候は雨だった。

[2]南砺市全体での南砺市全体で、下記の5グループに分かれて観光客及び周辺店舗、周辺施設へのアンケート調査(9月20日、火曜日)。天候は大雨だった。

(1)『恋旅』エリア A、エリア B(福野、井波)

(2)『恋旅』エリア B(菅沼、五箇山)

(3)『恋旅』エリア C(城端)

(4)『true tears』(城端中心部)

(5)『Another』(福野、福光、城端)

②富山市

富山市役所展望塔での観光客へのアンケート調査(10月2日、日曜日)。当日は『クロムクロ』に関連したパネル展示が実施されており、天候は晴れだった。

③立山町

[1]立山駅での観光客へのアンケート調査(10月22日、土曜日)。天候は曇りだった。

[2]黒部ダムでの観光客へのアンケート調査(10月23日、日曜日)。天候は曇り時々雨だった。

(b) 実地調査・聞き取りの現地調査

上述したアンケート調査と並行して、各地域でアニメーション作品がどのように受け止められているかについて地元住民からの聞き取り等を行った。また、富山県を舞台のモデルにしたアニメーション作品についてのコンテンツ・ツーリズムを実地調査することで、観光資源としての魅力が体感できるかについての調査を行った。

上市町では11月23日・水曜日(祝日)に、アンケート調査を実施せず実地調査と聞き取りのみを行った。当日の天候は雨だった。

【参考】調査地域に関わるアニメーション作品

今回の研究の対象である富山県を舞台のモデルにしたアニメーション作品のタイトルと公開時期、舞台のモデルとなった調査地域は以下の通りである。

『true tears』2008年・南砺市

『ゆるゆり』2011年・富山市

『Another』2012年・南砺市

『おおかみこどもの雨と雪』2012年・上市町、立山町

『恋旅～True Tours Nanto』2014年・南砺市

『クロムクロ』2016年・富山市、立山町

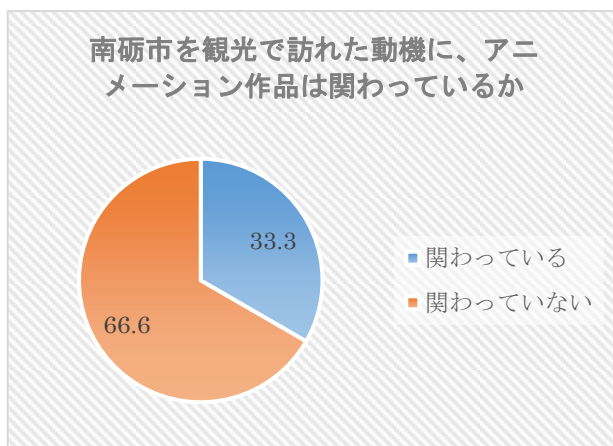
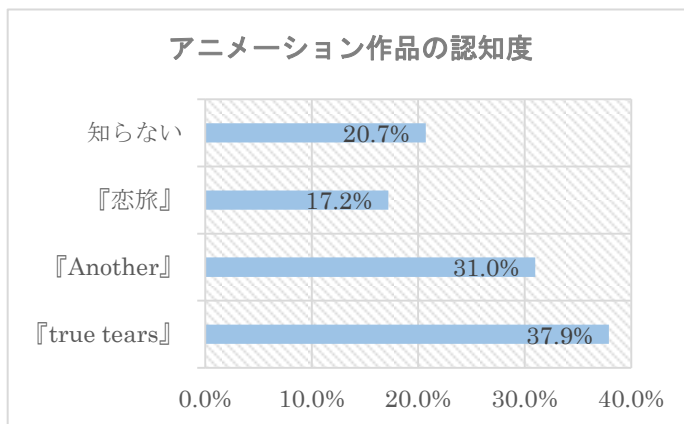
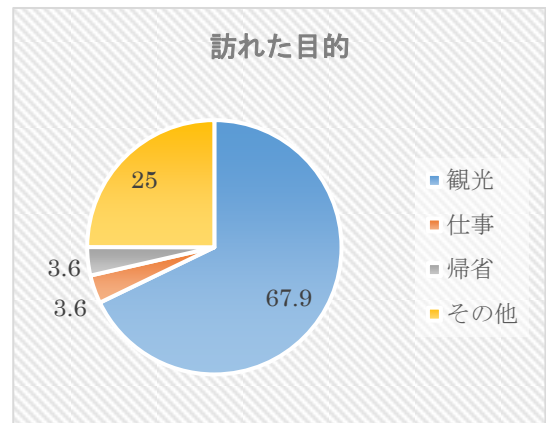
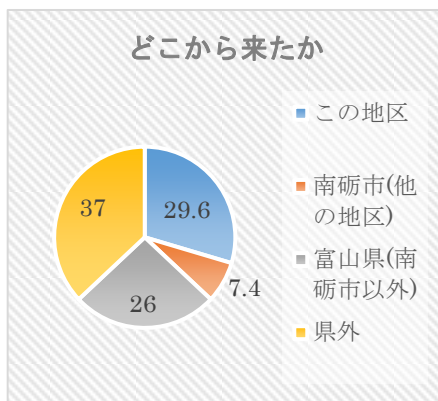
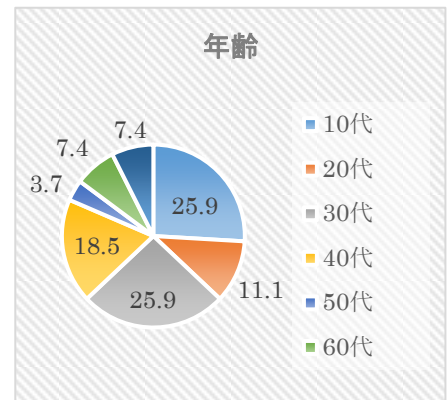
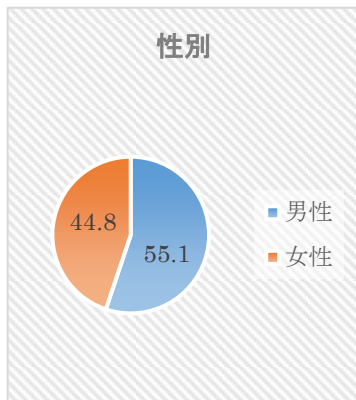
4. 調査研究の成果

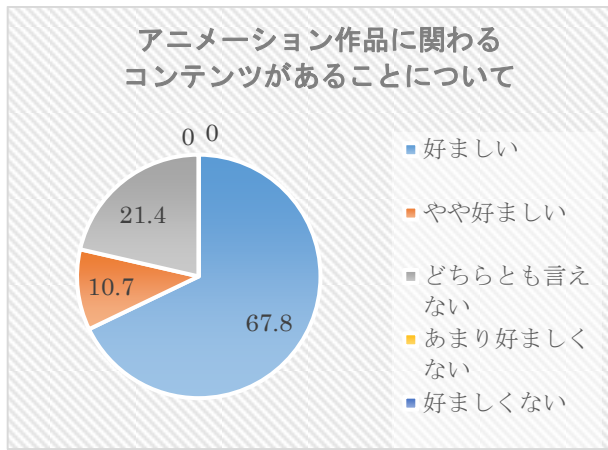
3で述べた調査内容に基づき、各調査地域で得られた結果は下記の通りである。

①南砺市

(a)観光客へのアンケート調査結果

[1]9月18日(日曜日)は雨天の中城端むぎや祭りが開催されており、城端地区でアンケートを実施、29件の回答を得た。





[2]9月20日(火曜日)は南砺市全体でアンケートを実施した。平日であることに加えて大雨であったため、観光客からの回答は8件に留まった。

性別

男性	女性
37.5%	62.5%

年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	それ以上
12.5%	25.0%	37.5%	12.5%	0%	0%	12.5%

どこから来たか

この地区	南砺市(他の地区)	富山県(南砺市以外)	県外
0%	14.3%	28.6%	57.1%

訪れた目的

観光	仕事	帰省	その他
85.7%	0%	0%	14.3%

南砺市を舞台のモデルにしたアニメーション作品を知っているか

『true tears』	『Another』	『恋旅』	知らない	無回答
25.0%	0%	12.5%	62.5%	0%

南砺市にアニメーション作品に関わるコンテンツがあることをどう思うか

好ましい	やや好ましい	どちらとも言えない	あまり好ましくない	好ましくない
50.0%	25.0%	25.0%	0%	0%

(b)周辺店舗、周辺施設へのアンケート調査結果

10月20日、22日の調査結果を合計して38件の回答を得た。

営業年数

5年未満	5年以上	10年以上	15年以上	20年以上
6.7%	6.7%	6.7%	10.0%	66.7%

南砺市を舞台のモデルにしたアニメーション作品を知っているか

『true tears』	『Another』	『恋旅』	知らない	無回答
42.1%	26.3%	78.9%	10.5%	0%

コンテンツ・ツーリズムを意識した活動をしているか

している	していない
36.4%	63.6%

(「している」と回答した場合)その活動をどのような理由で始めたか

P.A.WORKS や市役所から依頼された	独自に始めた	広報活動を見て応募した
90.9%	9.1%	0%

アニメーション作品があることは店舗・施設の利益増加につながっていると感じるか

感じる	どちらとも言えない	感じない
35.1%	45.2%	21.6%

アニメーション作品があることは地域にプラスの効果をもたらしていると感じるか

感じる	どちらとも言えない	感じない
62.9%	25.7%	11.4%

(c) 実地調査で得られた知見

『恋旅～True Tours Nanto』について精力的に活動をしている、あるいは協力している店舗が多かった。一方で『恋旅～True Tours Nanto』の公開から1年以内はアニメーション作品をきっかけにして訪れる観光客が多かったが、以降はあまり来ていないという意見もあちこちで聞かれた。『true tears』が放送された2008年から城端にアニメーション作品をきっかけにして観光客が大勢訪れたことを覚えている人が多く、観光客の中でも『true tears』の知名度が最も高かった。『true tears』のポスターが貼られている商店や施設も多数あった。

② 富山市

10月2日(日曜日)に富山市役所展望塔でアンケート調査を実施した。当日は展望塔で『クロムクロ』に関するパネル展示が行われており、天候は晴れだった。

(a) 観光客へのアンケート調査結果

40件の回答を得た。

性別

男性	女性
42.5%	57.5%

年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	それ以上
7.5%	15.0%	20.0%	15.0%	15.0%	22.5%	5.0%

どこから来たか

富山市	富山県(富山市以外)	県外
27.5%	10.0%	62.5%

訪れた目的

観光	仕事	その他
60.0%	7.5%	32.5%

富山市を舞台のモデルにしたアニメーション作品を知っているか

『クロムクロ』	『ゆるゆり』	『その他』	知らない	無回答
4.9%	2.4%	2.4%	71.0%	29.3%

富山市を舞台のモデルにしたアニメーション作品があることをどう思うか

好ましい	やや好ましい	どちらとも言えない	あまり好ましくない	好ましくない
37.1%	57.1%	5.7%	0%	2.9%

(b) 実地調査で得られた知見

パネル展に併せて設置されていた感想ノートには、展示開始当初からほぼ毎日のように書き込みがされていた。書き込みの頻度はおおそ平均して一日一人二人程度だった。アンケート調査に応じた観光客からは作品を知らなかった、観てみたいという声も聞かれた。

③ 立山町

10月22日(土曜日)に立山駅でアンケート調査を実施し、10月23日(日曜日)に黒部ダムでアンケート調

査を実施した。10月22日の調査時の天候は曇り、10月23日の調査時の天候は曇り時々雨だった。

両日のアンケート調査結果のデータをまとめて集計した結果を示す。

(a)観光客へのアンケート調査結果

61件の回答を得た。

性別

男性	女性
63.9%	36.1%

年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	それ以上
1.6%	23.0%	16.4%	23.0%	11.5%	13.1%	11.5%

どこから来たか

立山町	富山県(立山町以外)	県外
0%	11.9%	88.1%

訪れた目的

観光	仕事	その他
95.1%	3.3%	1.6%

立山町、及び黒部ダムを舞台のモデルにしたアニメーション作品を知っているか

知っている	知らない
5%	95%

立山町、及び黒部ダムを舞台のモデルにしたアニメーション作品があることをどう思うか

好ましい	やや好ましい	どちらとも言えない	あまり好ましくない	好ましくない
20.3%	64.4%	15.3%	0%	0%

(b)実地調査で得られた知見

立山駅、黒部ダムが経路に含まれている黒部立山アルペンルートの経路上の各駅で『クロムクロ』のポスターが貼られているほか、作品に関わる商品が販売されているのが確認された。立山駅には駅が独自に設置した感想ノートもあった。駅の職員の方からは、8月9月の夏休み期間は若い人が多く訪れたが以降は減少しているという話が聞かれた。黒部ダムでは感想ノートのような自発的な取り組みは確認できなかった。

④上市町

11月23日(水曜日・祝日)に実地調査・聞き取りを実施した。当日の天候は雨だった。上市駅では『おおかみこどもの雨と雪』内の家のモデルとなった民家が「花の家」として観光案内板などに掲示されていることが確認された。上市駅併設の観光案内所では『おおかみこどもの雨と雪』が公開された2012年から現在まで多くの観光客が訪れているという話を聞くことが出来た。また「花の家」を管理している団体の方からは、現在年1万人のペースで観光客が訪れている、『おおかみこどもの雨と雪』は全年齢の観光客に受け入れられているからファンが多く訪れている、「花の家」そのものを気に入って来る人もいる、などといった話を聞くことが出来た。

5. 調査研究に基づく提言

富山県内のコンテンツ・ツーリズムを利用して県内の観光産業を活性化させるためには、コンテンツ・ツーリズムの成功事例から活用すべき点を抽出することが重要である。今回の調査で得た結果から、南砺市の城端地区、及び上市町が、集客効果とその継続性という点でコンテンツ・ツーリズムを利用した観光の顕著な成功例として挙げられると結論付けて、これらの事例から今後の観光に応用可能な点を提言する。

まず前提として城端地区を舞台のモデルとした『true tears』、上市町を舞台モデルとした『おおかみこども

の雨と雪』、どちらのアニメーション作品もモデルとなった地域の魅力を活かした作品となっている。このためコンテンツ・ツーリズムを目的とした観光客が多く訪れた、または現在も訪れているわけだが、この観光客に対して城端地区、上市町どちらでも積極的に受け入れる姿勢やそれに準じた活動を継続的に、なおかつ密度を高めて小規模に行っている。この結果、コンテンツ・ツーリズムを目的とした観光客が地域の魅力に気付きやすくなり、コンテンツ・ツーリズムを目的とせずとも再度訪れるリピーターになるという構造が生まれている。城端地区の調査においてアニメーション作品の知名度が高いにも関わらず訪れた動機にアニメーション作品が関わっていると回答した人が少ないのも、この構造を示す実例であると言える。

アニメーション作品をあくまでも入り口として考え、コンテンツ・ツーリズムを目的とした観光客に地域の魅力を発見させて地域そのものへの観光へとシフトさせる、小規模で長期的な活動こそ、県内の今後の観光に応用可能な点であると提言する。

6. 課題解決策の自己評価

本研究は富山県のコンテンツ・ツーリズムに関する調査として(1)県全域にわたるものである、(2)富山県を舞台のモデルにした多くのアニメーション作品を視野に入れた横断的な調査である、(3)2016 年中期のコンテンツ・ツーリズムの実態を捉えた固有のデータを示している、という所に特徴がある。

しかし本研究で得られたデータは一時点でのデータに過ぎず、アンケートの母数も多いとは言えない。観光産業とコンテンツ・ツーリズムの関係性を把握したうえでより効果的に活用するためには、今後も同様の研究が継続されることが望まれる。